新病院長に聴く

第11回

独立行政法人国立病院機構
岩国医療センター院長
谷　本　光　音　先生

と　き　平成31年4月18日（木）
ところ　岩国医療センター院長室

［聴き手：広報委員　岡山　智亮］

岡山委員　平成26年度から始めました県医師会報の「新病院長に聴く」の第11回目として、平成29年4月に岩国医療センターの病院長に就任されました谷本光音 先生にお話を伺いたいと思います。

遅くなりましたが、改めてご就任おめでとうございます。まず、病院のご紹介からお願いいたします。

谷本先生　当院は岩国市にありまして、山口県東部の三次救急を中心とした高度急性期・急性期医療を展開している施設になります。元々は国立岩国病院として発足して70年の歴史ある病院ですが、平成25年に現在の愛宕山に移転をしてまいりました。それまでは、ここから4㎞程南にあります黒磯町というところにあったのですが、その場所がやや交通の便が悪いということもあり、こちらのほうに移転いたしました。救急医療が中心なのですが、実はかなり高齢者の方が多いので、そういった意味では少し回復期くらいまでは私どもの病院で診させていただいているのが現状です。血管性の疾患に対応するため脳外科や心臓血管外科（インターベンション）、それから循環器内科を中心にして急性期に対応した医療を行っているのも特徴の一つです。スタッフは現在約700名、34の診療科がありまして、ほぼすべての疾患に対応しているのですが、精神科とその入院病棟がなくて困っているところです。精神疾患があった場合の急性期にきちんと対応できないところが一番大きな課題でありますけど、現在は精神科の先生にも着任していただけるように準備しているところです。

岡山委員　先生がご就任されてから2年程度経つのですが、この2年間で何か大きく変わったことはあったでしょうか。

谷本先生　一番大きな変化は当初は530床の病床だったのですが、1年前に病床数を見直して9床ほど減少しました。現在521床ですけど、それでも病床利用率が80％程度に留まっているということから2年経った現在、さらに1病床を休止しています。それはこの地域の人口減少によるものと分析しているのですが、徐々にではありますが、利用される患者さんの数が少なくなっているという現状があります。

岡山委員　先生がご専門とされている血液内科を含め診療科の変化はありましたか。

谷本先生　診療科に関してはこの間に新たに救急科と私の専門である血液科をオープンさせていただいております。どちらも利用される方が非常に多くなりまして、特に血液科は2年経ったとこ

ろで統計をとったのですが、年間100例ほどの新患が入院されており、その８割が私どものところで診断と治療を担当しているということで徐々に患者さんも増えており、現在250～300名くらいの患者さんが治療を受けておられます。

岡山委員　いわゆる免疫療法なども積極的にされているのですか。

谷本先生　造血幹細胞移植はまだ始めておりませんが、それ以外の化学療法や免疫療法等は実際に行っています。

岡山委員　地域的にはどのくらいの範囲で患者さんは来られていますか。

谷本先生　血液科は結構範囲が広くて、柳井や周防大島はもちろんのこと、東は広島県の西部、それから島根県、西は徳山の手前くらいまでの方々が当院に掛かられている状況です。

岡山委員　免疫療法は今では一般の方たちにとってもトピックであったりすると思うのですが、治療に対して患者さんが誤解をされているようなことなどはありますか。

谷本先生　やはり患者さんの側からすると自分の病気がなかなか治らないので免疫療法をしてほしいという要望もあるのですが、私どもの行っている免疫療法は保険診療で認められたものということになります。疾患やステージの縛りがありますので、そういったことには厳密に対応して行っています。患者さんのニーズをお聞きしながら、できる範囲で対応するということで、いわゆる癌相談など相談の窓口も設けています。そこでは書面でご説明を行い、ご理解いただいたうえで診療を行っています。

岡山委員　救急科に関しては私の医院でも普段から大変お世話になっているのですが、地域のことを含め何か課題がありますでしょうか。

谷本先生　岩国市としては医師会病院とお互いに力を合わせて全体をカバーしていくといったことがますます重要になっていくと思います。私どもが一番感じていることは、一旦患者さんを救急で受け入れて病状が穏やかになった時に受け取っていただける施設が限られており、対応に困ることがあります。また、急性期に対応した病院であるため慢性期のケアが病棟でなかなか対応できないこともあるので、そういったことが患者さんにとってプラスになっているのか心配になることがあります。そういった患者さんを受け取っていただける施設の充実がエリア全体として大事なことと考えています。

岡山委員　私も普段の診療のなかで自宅の生活では苦労するだろうなと思われる患者さんもよく見かけます。

谷本先生　地域の社会に徐々に孤立した高齢者が増えており、地域の人で支えるといったような形の社会づくりをしていかないとなかなか難しいと考えています。

岡山委員　医療でカバーするだけでは少し限界があるということですかね。

次に、最近話題にもなっていますが、勤務医の残業時間の問題に関してどう思われますか。

谷本先生　働き方改革で法制化された部分がかなり勤務体系を変えています。勤務時間の制限があり、患者さんがいるのに働くことができないといった状況が起こる可能性があり、各スタッフに必要がないときにはできるだけ帰宅するようにお願いしているところです。患者さんを目の前に「時間が来たのでもう診られません」というわけにはいかないので、そういった状況をどう扱っていくのかが今一番大きな課題です。あとは超過勤務が重なっている人に対する健康管理も行わなければならなく、働けば働くほど複雑になっている状況です。本当の意味で働き方そのものを変えていかなければ目標の達成はなかなか難しいなと実感しているところです。

岡山委員　研修医の先生はどのくらいいらっしゃいますか。

谷本先生　今年もそうですが毎年10名くらいの研修医が入っています。私たちの病院の研修医の定員が11名ですからまずまず充足している状況です。

岡山委員　先生から見て若い先生の印象はどうですか。

谷本先生　非常に積極的に医療に取り組もうとしていてモチベーションの高い人が集まってくれています。救急を中心とした超急性期を扱っている病院なので、私たちが行っている新しい医療に対して興味を持ってくださっている方が多いという印象を持っています。

岡山委員　行政や医師会に対して何か要望はありますか。

谷本先生　病院の先生は皆さん思われていると思うのですが、経営のことを考えると医療費全体にかなり抑制がかかっている中で、とはいえ個々の医療ニーズには応えていかないといけないという相反する状況の中で苦労しているところです。今、一番理不尽だなと思っているのは、消費税増税分は医療施設が被らないといけないということです。2％は病院にとってはその分がいわゆる収益のギリギリくらいのとこで、消費税を2％上げられると完全に収益がなくなってしまう状況です。消費税以外にも、医療に関わる設備投資をしていることとそれに見合うだけの診療報酬がいただけているかというと必ずしもそうではない。一方、新しい薬やデバイスに関してはますます値段が上がっており、一方ではドクターの技術料や患者さんのケアにかかる費用が一切反映されてこないということで矛盾を強く感じています。医師会でも、こうしたことを強くアピールしていただきたいなと思います。

岡山委員　ここで先生自身のことをお話ししていただいてよろしいでしょうか。

谷本先生　私は愛知県の出身です。名古屋大学を卒業して24年間は名古屋大学にいました。その間の4年間はアメリカに留学して癌の勉強をしていました。18年前に岡山大学に参りまして、そこで16年、教室員にも恵まれて比較的いろいろな仕事をさせていただく中で特に副院長として7年間、それから研究科長として5年間、診療もそうですが研究のこれからの方向性といったことを中心に岡山大学で頑張ってきました。岩国に来たのは3年前ですが、岩国医療センターのいろいろな課題に対応してほしいという要請を受けて参りました。

岡山委員　どちらかというと複数の病院にそれなりの期間いらっしゃったほうですかね。

谷本先生　そうですね。大学勤めをしているとなかなか他の地域に出てくることは少ないのですが、私の場合にはチャンスがあったので、岡山大学に出てきましたが、病院運営も私にとっては新しいことだったので、それであれば山口県まで出て行こうと、ますます西のほうに進出してきています。

岡山委員　時間があるときには何か趣味をされたりしますか。

谷本先生　趣味は結構多いのですが、体を動かすことが好きなので、たとえばジョギングや野球を今でもやっています。それから小さいときから絵を描くことが好きだったので絵を描いたり、岡山に行ってからは備前焼を作ったり、写真をよく撮ったりもしています。

岡山委員　すごく多彩ですね。座右の銘はありますか。

谷本先生　私は全力投球ということが大好きで、いろいろなことを一生懸命する、そういう意味では先ほど野球をやると言いましたけどそこにも通

じていると思います。

岡山委員　ポジションはどこですか。

谷本先生　今はファーストを守っていますが、野球を始めた大学の時は肩が良かったのでピッチャーやセンターをやっていました。

岡山委員　最後になりましたが、何か広報委員にアドバイスはありませんか。

谷本先生　アドバイスといいますか、こういう機会を与えてもらって大変嬉しく思っています。今の病院でも広報というのは病院として一番大事な機能だと伝えています。広報がきちんとしていないとその組織のイメージがぼやけてしまうので、広報をしっかりすること、例えばホームページであるとか掲示物であるとか、外へのコメントなど、そういったものはいつも同じ視点できちんとメッセージを出すことが組織として大事なことだと考えています。その意味ではこれからも広報委員の仕事を頑張っていただけたら嬉しく思います。

岡山委員　本日はお忙しい中、ありがとございました。先生のこれからのご活躍と岩国医療センターの発展を願いましてインタビューを終わらせていただきます。

表紙写真の募集

山口県医師会報の表紙を飾る写真を随時募集しております。
アナログ写真、デジタル写真を問いません。
ぜひ下記までご連絡ください。
ただし、山口県医師会員撮影のものに限ります。

〒753-0814　山口市吉敷下東3-1-1　山口県医師会総務課内 会報編集係
E-mail：kaihou@yamaguchi.med.or.jp